

幼児教育史学会

第21回大会 プログラム

I. 期日：大会 2025年12月13日（土）

大会前日 12月12日（金） 関連企画1 附属幼稚園施設見学
大会翌日 12月14日（日） 関連企画2 愉フォロ会

II. 会場：お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 2階 多目的ホール
東京都文京区大塚2-1-1

III. 大会日程：

12月12日（金） 関連企画1 附属幼稚園施設見学

14:30 14:50 15:00 17:00

	受付※	移動	お茶の水女子大学 附属幼稚園 施設見学	
--	-----	----	---------------------------	--

※受付は、国際交流留学生プラザ2階です。

- ・子どもたちは降園しており、主に園舎・園庭の見学となります。
- ・会員限定、定員30名、**事前申込必須**です。（次頁のV. をご確認ください。）

12月13日（土）大会

8:30 9:00 13:00 14:00 15:00 15:30 17:30 18:00 20:00

受付※	研究発表	昼食※	総会	休憩	シンポジウム★	休憩	懇親会☆
-----	------	-----	----	----	---------	----	------

※受付は、国際交流留学生プラザ2階です。

※昼食時、プラザ1階のカフェは混雑が予想されるため、昼食のご持参をおすすめします。なお、茗荷谷駅1階にベーカリーカフェ、駅から正門までの間にコンビニエンスストアが数店あります。

★シンポジウムのみ、一般公開、オンライン併用で行います。

シンポジウムにオンラインで参加する方は、**事前申込必須**です。（次頁のV. をご確認ください。）

☆懇親会は大会会場と同じ2階にあるラウンジで行います。

12月14日（日） 関連企画2 愉フォロ会

9:00 9:30 12:00

受付※	愉フォロ会	
-----	-------	--

※受付および会場は、国際交流留学生プラザ3階セミナー室です。

IV. 参加費：

	会員	非会員	学部学生・大学院生
大会参加費※	1,000円	1,000円	無料
懇親会費	4,000円	4,000円	4,000円

※シンポジウムのみでオンラインでご参加の場合は、無料です。

V. 参加申込フォーム：

大会準備のため、事前申込へのご協力をお願い申し上げます。

▼幼児教育史学会第21回大会および関連企画 参加申込フォーム

<https://forms.office.com/r/kv8sTsNMLc>

右の二次元バーコードでも上記URLの参加申込フォームにアクセスいただけます。



事前申込の期限：**2025年11月30日（日）23:59まで**

（※期限以降は、フォームが使用できなくなります）

※シンポジウム（のみ）に【オンラインでご参加希望】の場合は、別の申込フォームでの事前申込が必要です。以下のURLより、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所のオンライン参加申し込みフォームでの事前申込をお願いいたします。 <https://forms.office.com/r/Z9ZqYCt9eu>



VI. 研究発表：

12月13日（土） 9:00-13:00 （一人あたり30分／発表25分・質疑5分）

司会：高田 文子（白梅学園大学）・上垣内 伸子（お茶の水女子大学）

- (1) 9:00- 9:30 「活水女園」の歴史
前田 志津子（元活水女子大学）
- (2) 9:30-10:00 「岩の坂貰い子殺し事件」（1930年）に関する新聞報道とジャーナリズム
—「貰い子殺し事件」のミクロストリアー—
浅野 俊和（中部大学）
- (3) 10:00-10:30 ナチス・ドイツの幼児教育にみられる反ユダヤ主義
—絵本『狐とユダヤ人を信じるな』を中心に—
勝山 吉章（福岡大学）
- (4) 10:30-11:00 1960年代イタリアにおける Ada Gobetti の思想がレッジョ・エミリア教育に与えた影響
田中 茉莉子（東京大学（院））
- (5) 11:00-11:30 戦後のキリスト教保育者養成における夜学の役割
—保育専門学校の必要性に着目して—
中村 早苗（草苑保育専門学校）
- (6) 11:30-12:00 戦後（60年代から2020年頃）乳児保育を巡る論点の変遷と歴史的考察
—金田利子らの乳児保育に関する著作を資料として—
金田 利子（静岡大学（名））
齋藤 政子（明星大学）
寒河江 芳枝（帝京大学）

12:00-12:10 休憩

12:10-13:00 総合討論

【発表要旨】

＊

(1) 9:00- 9:30 「活水女園」の歴史

前田 志津子（元活水女子大学）

「活水女園」は、親や保護者がいない子どもを養育する施設、現在では「児童養護施設」と改称されている。

活水女園開設の契機は、当時の災害により諸説あるものの開設に近い災害をみると、『長崎県福祉の歩み』では、「明治26年に有明海に台風が来襲し、口之津港の石炭船70隻をはじめ、熊本県長洲港の漁船などに未曾有の沈没被害が発生、ことに長洲方面の漁民のなかに路頭に迷う遺族が溢れ、多数の孤児が出た。このことを知った活水学院創始者であるエリザベス・ラッセルは、1893（明治26）年9月「活水女園」を熊本県長洲に創設し孤児となった女兒15名を引き取った。」とある。

当初「活水女園」は、熊本県長洲に創設とあるが、その施設を示すものは見当たらない。そこで、熊本の『王栄幼稚園創立100周年幼稚園創設期の歴史』の資料によると、熊本市九品寺に「白川女園」創立とある。王栄幼稚園は白川教会に隣接するところに現在も在り、白川女園と言われていたと考える。なお幼稚園入口の壁には、「創立1893年 明治26年」と刻まれていて活水女園創設と時期が重なる。また幼稚園遊戯室には、歴代園長の写真が掲げられ、創始者エリザベス・ラッセル先生長崎活水女子大学創始者とある。

その後、白川女園は、仮住まいだったため、1898（明治31）年福岡県古賀村に移転し、「活水女園」の建物は新築されている。しかし、さらにまた1906（明治39）年3月古賀村の建物を解体して全てを貨車に積み込み、古賀駅から長崎大村へと移って、解体された活水女園の建物は、大村で再建築されている。

熊本から福岡、そして長崎へと活水女園の変遷を辿り、「活水女園」を支えた人々のつながりを整理すること。そのことが研究報告の目的である。

＊

(2) 9:30-10:00 「岩の坂貰い子殺し事件」（1930年）に関する新聞報道とジャーナリズム —「貰い子殺し事件」のミクロストリアー

浅野 俊和（中部大学）

1930（昭和5）年4月半ば、東京府北豊島郡板橋町大字下板橋（現在の東京都板橋区本町）、俗称「岩の坂」で、大規模な「貰い子殺し」が発覚した。「貰い子殺し」とは、「私生児であることや経済的な困窮などを理由に子どもを育てることのできない親から養育金とともに子どもをもらい受け、その後養育を行わずにひどい扱いをしたり殺害してしまったりする」犯罪であり、そうした事件は江戸時代からたびたび社会問題化されてきたものである（高橋靖幸『児童虐待の歴史社会学——戦前期「児童虐待防止法」成立過程にみる子ども観の変遷』勁草書房、2024年、p.65）。

その「岩の坂貰い子殺し事件」は、1933（昭和8）年4月1日に公布される旧「児童虐待防止法」への社会的議論の分岐点であり、「児童虐待防止の法制化を直接もたらした」ものでもあったとされる（高橋、前掲書、p.216）。それは、新聞・雑誌報道を通じた話題化、さらに類似事件の相次ぐ発生・発覚とも相まって、社会事業関係者が積極的に発言し、児童虐待防止のための立法へ向けた議論を進めたと見なされる出来事であったからである。

しかし、そうした歴史的な位置づけや評価がなされる一方で、事件が持つ「虚構」性も指摘されている。「従来この事件は、『貰い子』に出した側の責任が問われることもなく、岩の坂の住民が

養育金目当てに四一人もの貰い子をつぎつぎと殺していった事件として半ば定説化し、流布されてきた」けれど、「すくなくとも町ぐるみの犯罪であったとする点、および被害者が四一人であったとする点については、事件の性格上その全貌が明るみに出ることをおそれた何らかの意思が働いたことも否定しえないとはいえ、『彼らの自供だけで（略）確実な証拠がなかった』と警察自身がみとめているように、立件されなかったという意味で、虚構であったといえよう」というのである（板橋区史編さん調査会編『板橋区史 通史編（下巻）』板橋区、1999年、p.282）。

本発表では、そうした「岩の坂貰い子殺し事件」に関して、数ヵ月間にわたる地元新聞の報道やジャーナリズムの反応をたどり、そのセンセーショナルな一出来事の生成過程を歴史的に再構成する。それを通して、「貰い子事件」のミクロストリアを試みてみたい。

＊

(3) 10:00-10:30 ナチス・ドイツの幼児教育にみられる反ユダヤ主義

—絵本『狐とユダヤ人を信じるな』を中心に—

勝山 吉章（福岡大学）

本研究は、ナチの時代にナチ公共福祉団（NSV）によって統制されたフレーベル主義幼稚園や託児所などで読まれた絵本に注目することで、幼児教育関係者が積極的に反ユダヤ主義を進めていった実態を明らかにするものである。ここに取り上げる『狐とユダヤ人を信じるな』（1936）は、18歳の美術学校生エルヴィア・バウアーによって書かれ、ユリウス・シュトライヒャーが主宰するシュトゥルマー出版社から刊行された。約10万部が印刷され各幼児教育施設や学校で使用されたという。ナチの時代は、ナチズムを礼賛する様々な絵本や児童書が出版されたが、同書は、そのおぞましい反ユダヤ主義によって注目を集めた。特筆すべきことは、シュトライヒャー自身が証言するように、同書の反ユダヤ主義が、マルチン・ルター（Martin Luther）の反ユダヤ主義を基盤にしていたことである。

ルターは、当初はユダヤ人に同情的であり、キリスト教徒に改宗させることが出来ると考えていた。だが彼の「二王国論」（神の国と世俗の国）は、世俗の秩序維持を求め、農民戦争への敵意とともに次第に反ユダヤ主義を強めていく。そして『ユダヤ人とのその嘘について』（1543）のなかでルターの反ユダヤ主義は牙を剥く。ユダヤ人は血に飢え、復讐心に燃えた悪魔の化身であるとしてルターは、シナゴグを焼き払うこと、家を破壊し財産を奪い、ラビ（聖職者）を追い払い、祈祷書やユダヤ律法を廃止すること、高利貸しを禁止して肉体労働させることなどを求めた。この内容がそのまま『狐とユダヤ人を信じるな』の内容に踏襲された。

同書はニュールンベルク裁判でも問題視されたが、シュトライヒャーはルターの思想に従ったにすぎないと反駁している。ナチの時代、幼児教育関係者はナチが期待する以上にナチに協力し、反ユダヤ主義を進めていったが、戦後は何らの反省もしないままだったという。ヘイトスピーチや外国人排撃が国内外で問題となっている今日、幼児期に偏見や憎悪を植え付けたナチの歴史を振り返る意義は大きいだろう。

（本研究は科研費（25K05912）の助成を受けたものである）

＊

(4) 10:30-11:00 1960年代イタリアにおける Ada Gobetti の思想がレッジョ・エミリア教育に与えた影響

田中 茉莉子（東京大学（院））

本発表は、レッジョ・エミリア・アプローチにおける親の「参加」という思想の源流を、Ada Gobetti（1902-1968）の思想から探求することを目的とする。特に、Gobettiの思想とレッジョでの受容における接続に焦点を当て、Gobettiの親に注目する思想が、1960年代イタリアにおいて思想的・教育的・フェミニズム的文脈にどのように位置づけられ、レッジョにおいてどのように受容されたかを明らかにする。

近年、保育における園と家庭のパートナーシップ構築に関する研究において、親の「参加」が保

育の質の向上に寄与する可能性を示している（OECD, 2011）。しかし「参加」は実践面の課題が多く、多くの研究で指摘されており、親の知識や経験を子どもの育ちに生かす真の「参加」のあり方を明らかにする必要がある。レッジョ・エミリア・アプローチは、アプローチの形成過程で親の参加が重要な理念・実践として形成されてきたという経緯を持つため、親の参加が実現している。Gobettiはレッジョの文献にも登場し、親・家族に関するレッジョの理論と実践の形成に深くかかわっている。

検討方法は、文献調査とインタビューによる。Gobettiが市民教育に関して執筆した雑誌『Educazione Democratica』、書籍『Vivere insieme』、親に向けて執筆した書籍『Non lasciamoli soli』を検討対象とする。加えて、2025年にレッジョで行った関係者へのインタビューを分析する。これらにより、Gobettiの思想がレッジョの親の参加の理論にどのように接続し、影響を与えたかを明らかにする。

本発表は、レッジョの親の参加という思想をMalaguzziらレッジョ内以外にAda Gobettiという新たな視点に見出すものである。Gobettiの思想的系譜を解明することで、親がなぜ「パートナー」として重要視されるのかという問いに対し、より深い洞察をもたらす。これにより、現代の親の「参加」をめぐる課題解決に、歴史的・理論的根拠に基づく新たな示唆を提供できる。

＊

(5) 11:00-11:30 戦後のキリスト教保育者養成における夜学の役割 —保育専門学校の必要性に着目して—

中村 早苗（草苑保育専門学校）

発表者が非常勤講師を務める草苑保育専門学校は2024年に創立70周年を迎えた。創立の経緯について『日本キリスト教歴史大事典』（1988年）には、「第2次世界大戦後、全国的にキリスト教幼稚園のキリスト者教師の不足が、地方教会幼稚園、保育園の間での悩みとなり、優れた保育者を養成してほしいとの切なる要望が基督教保育連盟に提出された。これを受けて同連盟常任理事会は佐藤初重理事を校長として、東京の原宿教会および同幼稚園を仮校舎とし、1954（昭和29）年5月、原宿高等保育学校を開設。生徒が昼間、幼稚園や保育園で助手として働けるよう夜間学校とした。青山学院大学の指導を受け、当時の教育学科幸田三郎助教授と三好浪江理事が教務を担当。（中略）」との記述がある。その後、独立した校舎が必要となったため、三好浪江理事の経営する八景坂幼稚園が移転予定であった豊島区目白の成蹊女子学園跡地へ共に移転し、1957年、学校法人草苑学園を設立して草苑高等保育学校、草苑幼稚園と改称した。その後、1982年に昼間部を開設、1995年には夜間部を休部（2005年に廃止）、2010年より男女共学となった。

本研究の目的は、戦前から継続しているキリスト教主義の養成校もある中で、戦後のキリスト教保育者は不足していたのか、新たに夜学の保育専門学校を設立する必要はあったのかについて確認することである。また、創立時は夜間部のみだった草苑保育専門学校は1982年に昼間部を開設したことで、1995年に夜間部を休部するまでは昼間部・夜間部が併存していた。その時期の学生数の推移や社会情勢から夜間部休部に至る経緯を明らかにすることで保育者養成における夜学の果たした役割について明らかにする。

上記の目的を明らかにした上で、18歳人口が減少し、保育者養成校の募集停止が続いている現状を踏まえ、保育者養成における保育専門学校の必要性についても考察したい。

＊

(6) 11:30-12:00 戦後（60年代から2020年頃）乳児保育を巡る論点の変遷と歴史的考察 —金田利子らの乳児保育に関する著作を資料として—

金田 利子（静岡大学（名））

齋藤 政子（明星大学）

寒河江 芳枝（帝京大学）

発表者の一人である金田の論文が活字になったのは1960年代からであり、特に乳児保育に関する

論文は、選択して23本程になる。そこで、本発表では、これらの乳児保育に関する論文・著作が、その時代の社会状況をどう反映したのかを紐解きながら、その後の乳児保育の発展に、またこれからの展開に、どう止揚されていくべきかについて議論することを目的とする。

方法として時代（社会状況、乳児保育政策、人々の暮らしの様式の「発展」）の中でどんな保育要求が生まれ、論争があり、保育実践としてどんな特徴が現れていくか、乳児保育を巡る総合的な年表を共同で作成する。その時期ごとに発表された金田（時に共著）の著作を照らし合わせ、子育ての実態や社会状況をどう反映し、何に答えようとしたのか、どんな実践を引用しどう質をとり出そうとしているのかを明らかにする。

結果として見えてくるものは、視点が常に生活者の要求からそこにある矛盾を越えていこうとする事で、市民の要求が研究の下地にあるという点である。60、70年代は「家庭保育か、集団保育か」の論争時代にあったが、集団保育の是非論を超えて、乳児集団保育の良さを見出す研究が積み重ねられている。80年代にかけて、母子関係論も含め、関係論を科学的に学ぶ中で、集団保育の中で個を生かす保育の方法を見出す研究が行われている。また、そうした視点は、他の論者や世論とも呼応し、「家庭保育も、集団保育も」という90年代以降の少子化対策が迫られる時代に繋がっていく。さらに、待機児童対策のための深慮なき保育拡大政策の中で、保育の質低下が問題になり、「保育の質」の研究へと視点の舵を切っていく過程が資料から明らかになった。

さらに、近年の保育の質研究を見渡すと、「質」とは何かへの問いから「質」を超える方法論の模索へと議論が向かいつつある。参加者諸氏との討論を期待したい。

＊

VII. シンポジウム：

12月13日（土）15:30-17:30 対面・オンライン併用、オンラインのみ一般公開

主催 幼児教育史学会、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所

テーマ：レッジョ・エミリアの幼児教育と女性たちの歴史

○講演者：

Sabine Lingenauber（Hochschule Fulda）

Janina von Niebelschütz（Hochschule Fulda）

○指定討論者：

小玉 亮子（お茶の水女子大学）

○司会者：

一見 真理子（お茶の水女子大学）

（趣旨）

レッジョ・チルドレンで開催されている幼児教育に関する研修に参加されたことのある方はご存知かと思いますが、そこでは、最初に、戦時下のファシズムに対するレジスタンスの経験と、戦後の復興の中で市民たちがいかに立ち上がってきたのか、そしてレッジョの基本が民主主義であることが語られます。戦後80年を迎えた今年、戦争と民主主義に焦点を当てて、幼児教育を考えるシンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、戦時下にレジスタンスとして活動し、戦後レッジョ・エミリアの幼児学校をつくった女性たちについて、動画を作成されたドイツのお二人の研究者をお招きします。ドイツのフルダ大学教授のSabine Lingenauber氏と共同研究者のJanina von Niebelschütz氏です。お二人は、レッジョ・エミリアの幼児学校を作ることに貢献されてきた女性たちのインタビューをまとめたDVD *The Women and the Schools of Reggio Emilia*を作成され、それに関連するサイトを立ち上げておられます。

DVDの一部がYouTubeで公開*されていますので、ご関心のある方はぜひ事前にご覧ください。

当日のシンポジウムでは、この動画を作られた経緯、どのような研究組織あるいは、ネットワークで作成

したのか、DVDへの反響、その後の活動、作成から現在に至る困難や課題等をお聞きしたいと思っています。そして何より、このDVDで、多くの女性たちに焦点を当てた背景についてご発表いただきます。

日本における幼児教育史研究は、これまで主として文字を通じてその成果が公表されてきました。実際の声による証言や、動画による記録の持つ意義と課題を考えることで、これからの研究のあり方への示唆を得ることができれば、と考えています。

*参考：https://youtu.be/ivLAQ_kbNB8?si=99afwxQug2SYfDgt (2025/06/15閲覧)

VIII. 関連企画2 愉フォロ会のご案内：

大会翌日に「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会」（愉フォロ会）を開催いたします。

日時：12月14日（日） 9:30-12:00

会場：お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ 3階 セミナー室

内容：福島 友（学校法人大宮福島学園 植竹幼稚園（東洋英和女学院大学大学院修士修了））

「幼児教育と小学校教育の接続において躓きを引き起こしやすい価値観の違い

—保育内容領域「言葉」と学習指導要領「国語」のカリキュラムと実践の比較から—

IX. 大会に関する問い合わせ先：

幼児教育史学会 第21回大会実行委員会

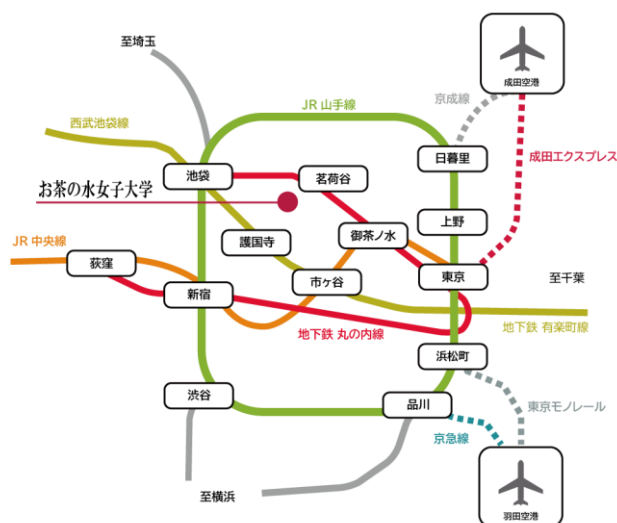
お茶の水女子大学 小玉亮子研究室内

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

E-mail：ochadai.youjikyokushi@gmail.com

X. お茶の水女子大学へのアクセス（主な鉄道駅から）：

主な鉄道駅	交通機関	行程
◇ 池袋駅から	電車	東京メトロ丸ノ内線「新宿、荻窪方面行」茗荷谷駅下車
		東京メトロ有楽町線「新木場方面行」護国寺駅下車
◇ 東京駅 または 御茶ノ水駅から		東京メトロ丸ノ内線「池袋方面行」茗荷谷駅下車
◇ 池袋駅から	バス	都営バス（東口のりば⑤）都 02 乙「東京ドームシティ行」大塚二丁目下車
◇ JR 大塚駅から		都営バス（南口のりば①）都 02 「JR 錦糸町駅行」大塚二丁目下車



【各最寄り駅から】

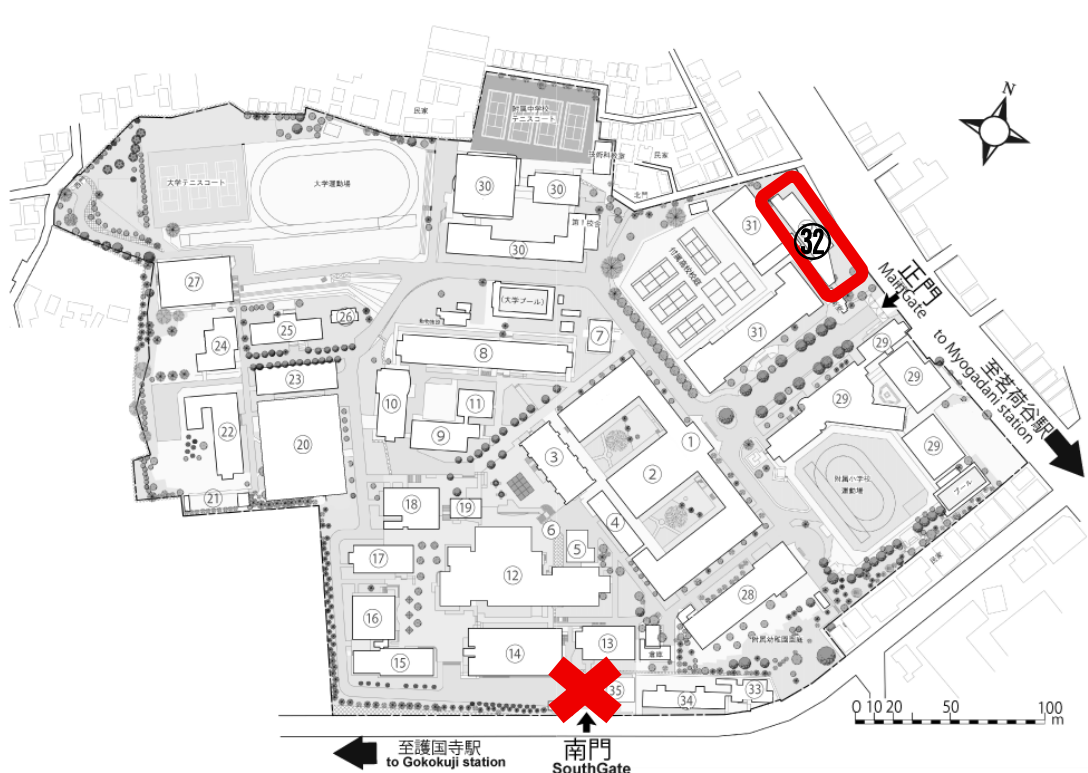
- ・「茗荷谷」駅より徒歩7分
- ・「護国寺」駅より徒歩8分
(※正門までは徒歩15分ほど)
- ・「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分

※会場である国際交流留学生プラザは、大学正門右手に隣接していますので、東京メトロご利用の場合は、茗荷谷駅のほうがより近く、便利です。

※護国寺駅をご利用の場合、お茶大に向かう際は主に上り、お帰りの際は主に下りの坂道（附属横坂（附属校坂）または富士見坂）があります。

※お茶の水女子大学 キャンパスマップ

- ・国際交流留学生プラザは、下図（キャンパスマップ）の③②です。
- ・プラザ正面の専用ゲートを通り、正面玄関からお入りください。入構手続きはありません。
専用ゲートが閉門している時間帯は、大学正門横の通用口から、プラザに出入りすることができます（ただし、大学構内に入ることはできません）。
- ・大会当日（12/13（土））および大会翌日（12/14（日））は、南門は閉まっています。
- ・大会前日（12/12（金））にご参加の場合は、正門方面から国際交流留学生プラザへお越しいただきますようお願い申し上げます（南門は開いておりますが、入構いただけません）。



〈参考〉お茶の水女子大学 交通アクセス・キャンパスマップ

<https://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

<https://www.ocha.ac.jp/access/ochacampusmap.html>

第21回大会実行委員会一同、皆様のお越しをお待ちしております。